

臨床実習指導のあり方についての一考察

—— 学生 T とのかかわりを中心として ——

合 田 富美子
千 田 好 子

はじめに

看護は「人間として」あるいは「全人間として」患者を把握しなければならない、といわれる。しかし、事新しく声を大にしていうまでもなく至極当然のことであり、そこには患者を「人間として」把握していないということがあるからではないだろうか。

現に患者を分析的に観察し、情報を集め、看護問題を抽出し、対策を立て、看護行為を行うという、いわゆる看護過程を分断して学習するという方法が、看護教育、しかも臨床実習の場で行われている。筆者らは、このような方法で患者を「全人間として」把握することができるだろうかと、疑問を持ち続けてきた。即ち、一人の患者を分析的に観察し、情報を多く知ることが、患者を理解したことになるのか、ということ。学内において学友同志が模擬患者になり合っている実習で、観察や看護過程を分断して練習してみるのとは、学習方法として認められるであろうが、少なくとも臨床実習の場で患者に対する時、看護の過程を一区切らず確認しながら行うという学習方法をとることは出来ないのである。なぜならば、そこには患者をくものくとして見るくものくとして扱うという危険が潜んでいるように思えるからである。

臨床実習の場で、患者をくものくとすることは禁忌であり、何よりも「生きている全体としての人間」に對することが最優先されなければならない、と考える。

それでは、具体的に患者を「全人間として」把握する臨床実習を、どう展開すればいいのかということになるが、筆者らはそれが分からず困惑していた。そこで、大段^(註)氏の指導を受けて、昭和52年度総合実習(2年次生)において「全人間として患者に對する」ということを意図して、実習を展開した。そしてその記録を検討し成果を問い、多くの示唆を得たので報告する。

(註) 大段智亮氏は、医療や看護における人間学を考え、そのための学習の場を開いてきた。筆者らは、氏の主宰する看護人間学教室で教を受けてきた。

I 本実習の概要と実習展開の意図

1 実習の概要

本実習は2年次生後期に2単位実施するもので、学生にとっては患者を受持って行う、初めての実習である。

実施要項に示された実習の目的は「受持患者との間に助力的関係を確立し、患者の基本的要求に沿って必要なケアを行う」とあるように、いわゆる基礎看護実習にあたるものである。

実習の展開としては、1グループ6名で編成し、各々の学生が1人の患者を受け持ち、8時30分から15時30分までを病棟実習とし、それ以後17時まではグループ毎に話し合いの時間をもった。

臨床指導としては、原則として1グループに1人の教員が指導にあたった。筆者らは、たま

たま2人で指導することになり、病棟での指導を千田が、実習後の話し合いを合田が、各々分担することにした。更に実習担当者から詳細な実施要項が出されているが、ここでは割愛する。

2 実習展開の意図

本実習の開始に当り、筆者らの実習展開の意図を学生（6名）に次のように示した。

- (1) 初めて患者を受持って実習するので、戸惑うことも多いと思うが、勇気をもって取り組んでほしい。
 - (2) 教員（千田）は病棟実習中（8時30分～15時30分）は看護婦詰所で待機しているので、困ったり、問題に突当たったりした時には、積極的に相談や助力を求めているので、
 - (3) 実習目標として要項に記されている5つの項目（受持患者の情報収集・問題点の抽出・看護計画の立案・実践・評価）は総合されたものが患者対学生の間に関係づけられなければならないので、“下手は下手なりに”患者と接するところから始めてほしい。
 - (4) 受持患者については、先入観、偏見を持たない方がいいと思うので簡単に一覧表（氏名、年令、性別、診断名、特記事項）にしたので見てほしい。
 - (5) 病棟実習終了後（15時40分～17時）更衣室で、合田の参加のもとに話し合いを行い、その日のまとめをする。（話し合われた内容を、テープレコーダーにとりたい）
 - (6) 毎日の実習内容を、各自ノートに記録し、翌日の朝千田に提出してほしい。
（千田はその日のうちに読んで返却する）
 - (7) 11日間の実習で学んだことを、ケースレポートにまとめてみることに。
- 以上を学生に伝え、実習に入った。

Ⅱ 実習指導の概要

筆者らが受持ったグループ6名の^(註)実習の全過程を資料にすると、可成り大なものになった。その中から今回は、受持患者Yとの人間関係がうまくいかなくて困った、T学生に焦点を絞り実習指導の概要をまとめた。その資料には次の記録を用い、問題のありそうな場面・箇所を抜粋し、実習日毎に「学生の実習記録」「教員の指導記録」を対比して記載し、これらの記載欄から「T学生の変化」と「教員の反省・評価」を、右端の欄に記し本実習の展開状況を探索した。

（註）受持患者Y氏：22才、男性、腰椎椎間板ヘルニアで、受持時3回目の手術後36日目ベット上の生活をしている。

- 1 学生の実習記録：記載様式、内容は指定せず、各自が自由に記録した。
- 2 会話記録：できるだけ患者との会話を記録するよう指示した。この際、記憶の新しいうちに記録する方法をとった。
- 3 教員の指導記録：病棟での指導記録
- 4 病棟実習終了後話し合った記録：全過程をテープレコーダーに録音し、後で聞き返し文字にうつしとった。

表1 実 習 指 導 の 概 要

(Y:患者 T:学生 G・S:教員) (《 》内は註釈

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実 習 第 一 日 目 (10 月 31 日 ・ 月)	<p>〈午後Yの病室を訪れ、話をする〉</p> <p>T₁ 今尿器に(尿が)たまってますか。 たまってたら、換えて来ますけど。 Y₁ たまっとるわ。換えて。 T₂ はい。(尿器を、換えて来る) T₃ やっぱり、寝たままだと、食事は しにくいでしょうね。 Y₂ まあ。 T₄ お昼御飯を全然食べてなかったよ うだけど、フォークだけ使って食べ てらっしゃるから、食べるのにか しら。スプーンで、御飯を食べると、 食べやすいのじゃないかしら。 Y₃ いや、フォークの方が食べやすい。 僕あんまり、御飯は食べん。おかず だけ。 T₅ へえーそうですか。おなかやすい たりしないですか。 Y₄ 別に T₆ 清拭は、割とされているみたいで すね。髪は週に1度洗う、というふ うになっていますけど、それで普段 かゆくなったりすることは、ないで すか。 Y₅ ん。別に。夏じゃないから。 T₇ いつも、こうやって、ラジオ聞い てる？ Y₆ そう、だいたいね。まあ雑誌も見 るけど。(Yは雑誌を読み始めた) 患者さんとのコミュニケーションが うまくいかない。こちらが聞いたこと しか答えてくれないので、度々沈黙が 続く。看護婦さんとは、割と話をされ ているみたいなのだけど……どんな 事を話せばいいのかわからない。こち らばかりが質問するような、コミュニ ケーションはよくない。患者さんが、 <u>今、どんな気持ちなのか知らない。</u></p>	<p>〈更衣室での話し合い〉</p> <p>T₁ 患者さんの方からは、全然話をし てくなくて(そう、ふん)こちら が聞くと、それには、ちゃんと答え てくれます。だから、患者さんが、 今どういう、気持ちであるとか、それ は、全く聞けませんでした。(ああ そう) G₁ どうもありがとうございます。次Mさん、ど うぞ。</p> <p>〈於 病棟〉</p> <p>学生の記録物を読み、~~~~~ 線の下に、コメントをつけた。</p> <p>Yさんが、自分の気持ちを話してく れる状態は？Tさんが、Yさんに 質問すれば、Yさんはそれに答え ますね。(それ以上発展しないと思 います)Tさん自身の気持ち(Yさ んと、会話していて、その時感じ たことなど)を、正直にYさんに 伝えることも、してみてもいいか ですか？</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>情報集収のため、Yに多くの質 問をした(T₃〜T₇) Yは必要 以上の事は話してくれない。 「Yは無口だな。少し、ひねく れているな」という、先入観を もった。</p> <p>〈更衣室〉</p> <p>T₁ でTの困った気持ちを、言っ ているのにかかわらず、話し合 いの場で、取り上げようとして いない。(G₁) 教員側にも、緊張があり、「聞 かなければ、言っではいけない 、」という意識が、強かった ように思う。</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>会話記録を活用し、Yとの会話 に困っているTと、もっと、具 体的に話し合うべきである。 (コメントだけに終わらせてはいけ ない)</p>
実 習 第 二 日 目 (11 月 1 日 ・ 火)	<p>〈下肢の、機能訓練の確認をする場面〉</p> <p>T₁ あの一、膝に力を入れたりするよ うな運動は、1日に、どれ位、して いますか。 Y₁ 朝と昼と晩、にしろるけど。 T₂ 具体的に、どんなふうにして、やっ ている？ Y₂ んー、だから、膝に力を入れたり するんだらう。 T₃ 足首の運動は、してますか。 Y₃ ……… T₄ んーと、こんなふうにして(手首 を足にして、背屈と底屈をする)足 首を、そらせたり、曲げたりするん だけど…… Y₄ ……(へーえ、というような顔で みる) T₅ でね。今日その運動を確認する意 味で、患者さんと一緒に、したいん だけど。</p>	<p>〈更衣室での話し合い〉</p> <p>T₄ コミュニケーションについては、 まだまだ問題が多くて、¹⁾今一す、 言えないんだけど、割と、孤独を愛 するっていうんか、そういうんかな と、午前中は思っていたんですけど、 午後、バック・ケアで、看護婦さん と行って、私の方は《Yの身体を》 支えたり、とか、《物品の》準備を したりする程度なんですけど、その 時、すごくよく話をされるんです。 笑いながら。よく話の内容を聞いて みたら、患者さんの方から、看護婦 さんに話しかけるのは、他の患者さ んのことばかりなんです。他の看護 婦さんのこととか、聞いたりするん です。そういう話だったら、学生の 私に聞いても、答えてくれそうにな いし、という感じで、私との話とい うのが、よくできない、と思ったんです。²⁾</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>看護婦から、「下肢の機能訓練 を確認しよう」注意を受け、 それを実施した。そのやり取り の中で、Yは、子供扱いされた ことに対し、立腹し、反発した (Y₅、Y₆、Y₇)しかし、T は、説得し、Yに運動をさせた。 「Yは孤独を愛する人なのだ。 自分が学生で、話題がないから ……」等と、Yが話をしてく れない理由を、考えてみた…… ……2) 次第にYの病室へ行き辛くなる。 ……4)</p> <p>〈更衣室〉</p> <p>問題が多くて……を、問題 として、とり上げるべきであ る。……1)</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習 第二日目 (11月1日・火)	<p>Y₅ 確認?一緒にするって、どういうこと。</p> <p>T₆ んーと。確認っていうんか、なんていうか勿論ね。患者さんが、毎日やっているんでしょうけど。だから、一緒にしましょう。</p> <p>Y₆ そんな、なー、一緒にするって、子供じゃあるまいし。</p> <p>T₇ そんなこと、別に。んー、とにかく、どういうふうに、患者さんが、運動をしているのか、見せてもらいたいです。</p> <p>Y₇ 子供じゃあるまいし。</p> <p>T₈ とにかく、一緒にしましょう。いやですか。</p> <p>Y₈ 別に……。</p> <p>T₉ 患者さんが、いつもやっているようにして下されば、いいんですよ。私見てますから、ね。</p> <p>Y₉ まあ</p> <p>患者とのコミュニケーションが、なかなかうまくできない。何か尋ねると、「別に」これで、終わってしまう。私が話したことや、質問に対して、その良し悪しが、すぐ患者さんの、ものの言い方や、表情でわかる。³⁾横の椅子に坐って、話をしようとして、張り切って入ったことはあるが、すぐ話が途切れ、患者さんは、耳元でラジオを聞きながら雑誌を読み、私はじっと前方を見つめて、沈黙が続き、とても居辛い思いをしたため、一寸暇が出来ても、なかなか、実施計画に示した事以外は、病室へ行こうとしないのである。(これではいけないと、よくわかってはいるが……)⁴⁾ 会話の中で、ふっと、心に湧いたことも、話してみようと思います。</p>	<p>G₂₁ 看護婦さんとは、よく話をされるわけね。</p> <p>T₅ わりと、笑いながらいつか……。</p> <p>G₂₂ そう……人みしりする人ではないの?</p> <p>T₆ その辺は……。</p> <p>G₂₃ そんな感じはしない。</p> <p>T₇ でも、昨日よりは、気楽に、一寸尿器換えてくれるとか、ああいうふうには、言ってくれる。</p> <p>G₂₄ じゃあ、全然ものを言わない人ではないわけだね。そんなところ?(ハイ)</p> <p>では、次Saさん。</p> <p>〈於 病棟〉</p> <p>サービス室で、洗濯物をたたんだりして、Yの所に行き辛くしているTを見ても、教員は話しかけない。</p> <p>実習ノートに、「会話をテープに録音して、Tさんの態度を分析してみてもは?」と記す。</p>	<p>「私が学生だから、Yは話してくれないのだ。私には問題がない」(自分を見たくない)というTの姿勢に、気付かせる必要がある。……2)</p> <p>T₄ の「話をしてもらえなくて辛い」という気持ちを、理解していない。軽く、聞き流している。(G₂₁ ~24)</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>Y₆・Y₇ で社会的人格を認められていないことに対し、立腹している。Tに気付かせる必要がある。</p> <p>Tは可成、敏感にYの表情を受け止めている。……3)</p> <p>「わかっているが、Yの所へ行けない」でいる、Tの気持ちをくみ取っていない。……4)</p>
実習 第三日目 (11月2日・水)	<p>〈Yの所へ、昼食を配んでいった場面〉</p> <p>T₁ 食事を持って来ました。いつも、お昼御飯食べていらっしゃいませんね。朝はパンで、割と食べてるようなのに、もし、何だったら、お昼もパンにしましょうか。</p> <p>Y₁ えーっ。朝も昼もパン?</p> <p>T₂ でも、御飯、全然食べられてないですよ。</p> <p>Y₂ ………。</p> <p>T₃ 御飯が嫌いというんなら、パンに、変えるんですけどねえ。</p> <p>Y₃ そんなこと、誰が言ったん。</p> <p>T₄ 私です。</p> <p>Y₄ そんなん、勝手に出来るん?(少々笑う)</p> <p>T₅ できますよ。さっき、調理室の所の、おばさんに聞いたら、出来るって言われましたよ。</p> <p>Y₅ いいわ、御飯で。</p> <p>T₆ でも、食べないでしょう。</p> <p>Y₆ 別に、構わんが。</p> <p>T₇ んー。でも今、褥創が治りかけて</p>	<p>〈於、病棟〉</p> <p>15時頃、Tが「今日は、コミュニケーションが、うまくいって、とてもよかったです」と、喜んで報告する。教員Sは、彼女の嬉しそうな表情に同調し、「そう、よかったねえ」とだけ答える。</p> <p>左記の記録に対し、以下のように記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y₃・Y₅・Y₆・Y₇ の発言を考えてみて下さい。Yが反発しているのは、何故でしょうか? • ~~~~~線を書き、Tさんのとる態度によっては、Yさんは、悩みを言い出すかもしれませんね。とコメントをつける。 <p>〈更衣室での話し合い〉</p> <p>T₁ 私の場合は、月・火《曜日》とずうっと、コミュニケーションが進んでなくて、色々、こう、あれしたんですけど、今日は、先生の方から、御指導もありまして、一寸、どかつ</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>教員から「Yの側にじっといたら?」と言われ、そのように努めた。すると、Yは、今迄になく、よく話をしてくれたので非常に喜んだ。</p> <p>話し相手にでもなれるよう、毎日30分は、Yの側に坐ろうと決めた。……1)</p> <p>〈病 棟〉</p> <p>教員は、「Yと話ができない」というTの問題が、「少し好転して来た」位に思い、「良かった、良かったで、終わった。</p> <p>〈更衣室〉</p> <p>患者の側にどんという、Tの姿勢について、もっと話し合わなければいけない。……2)</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>前日迄の記録物の活用がされ</p>

	学生の実習記録 (会話記録・実習ノート)	教員の指導記録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習第三日目 (11月2日・水)	<p>ますねえ。だから、栄養を、しっかり摂っておかないと、治りが遅くなるんですよ。だから、もりもり、食べないとねえ。</p> <p>Y₇ 食べるわ 食べりゃ、ええんじやろ。 《れば》《いゝんだらう》</p> <p>〈患者とのコミュニケーション〉 2週間しか受け持たない。しかも、学生に、決して悩みなど、打ちあけて下さるはずはない³⁾。と思っている。でも、心の中の、奥底の悩みでなくても、せめて患者の方から「今日は、腰が痛くないなあ」とか、いうように、口に出して下さるようになれば……。1日退屈だと言われたが、この私では話し相手としてだけでも、つまらないものだろうか。毎日、少なくとも、30分は、患者の側に、<u>坐っているように決めた</u>⁴⁾。</p>	<p>と、3時頃迄は、いますからって、患者さんの側に、ずうっと、ついていたら、やっぱり少し位、話が進んで、初めて、3日目にして、患者さんの方から、話しかけて下さった所があったんです(ああそう)すごい、嬉しく思って、今度からは、暇になったら、患者さんの横に、<u>どん、と坐ってやろうと、思っています</u>²⁾。(略)</p> <p>G₁ 大体そんなとこ？それでは次。</p>	<p>てない。毎日、コメントだけで終らせているため、教員の意向は、Tに伝わっていない。</p> <p>Tは「Yは、2週間しか来ない学生に、悩みを打ち開けるはずがない」と決めつけている。(……3)一方「話し相手にでも……」と、Yをなぐさめようとする気持もある。しかし、会話記録から、TがYをなぐさめているような場面はうかがえない。</p> <p>会話に問題があるが、その検討がされていない。</p>
実習第四日目 (11月4日・金)	<p>〈午後、下肢の機能訓練を、一緒に実施しようとYに勧めるが、Yが「自分1人で出来るからいい」と拒否した。しかし、Tが、強引にYに対して、運動をさせようとする場面〉</p> <p>Y₆ 確認でないなら、なおさら、そんな、いちいち、見んでもいい。</p> <p>T₇ でも、見たいんですよ。それに膝を押えてすると、もっと筋肉が、良く働いて、いいんですよ。そしたら、介助がいるでしょう。</p> <p>Y₇ それならそうと、ちゃんと、初めから、言えは、ええが《いいが》</p> <p>T₈ すいません。じゃあ、今度から、何かする時には、こうだからって、ちゃんと言えは、いいんですか？</p> <p>Y₈ そんな、なあ、そんなことよりなあ、尿器をちゃんと、換えとりゃあ、ええんじや。ようけ《沢山》出るんじやけ《だから》</p> <p>T₉ あんまり、飲まないって言ってらしたけど、じゃあ、沢山、お茶、飲むんですか？</p> <p>Y₉ ようけ飲むけえ《から》出るんじやが《だ》</p> <p>T₁₀ 1日に、どれ位、このやかんに、どれ位、飲むんですか？</p> <p>Y₁₀ 決まっとるが、そのやかんに、3回、朝・昼・晩とノ</p> <p>T₁₁ ああそうですか。じゃあ、尿器換えて来ます。おおこわ。怒ったように言うんだから。</p> <p>Y₁₁ お前なあ、怒るって……。 (私は、汚物処理室で、思わず泣いてしまった。それでも、涙を拭いて、Yに気付かれないように、すぐ新しい尿器を、持って行った。とてもYと話が出来るようになかったので、すぐ、病室を出ようとした。その時)</p> <p>Y₁₂ なんだー、あの態度はノ (私は、知らぬ顔で出て行った。一生懸命なのに、私のどこが、いけな</p>	<p>〈於 病棟〉</p> <p>15時前、Tが泣きながら教員Sに報告する。「いじけてコミュニケーションしてません」と。看護婦詰所から、1階外来へ行く。椅子に坐って、Tの話を聞く。Tは、泣きながらも、「Yが自分を受け入れてくれず、きつい言葉で、反抗して来るので、とても悲しい……」と話す。</p> <p>Sはじっと、Tの話を聞いた。15時30分の終了時間が来たので、会話を終えた。</p> <p>S 一生懸命やっているのに、はねのけられると、くやしいねえ。どうする？ どうしたらいいか、考えてみようね。</p> <p>〈更衣室での話し合い〉</p> <p>T₁ (略)あと、一寸コミュニケーションしましたが、問題がありまして。G₁ どんなことがあったの。どうしたん、涙が出て来るん？</p> <p>T₂ 何か、すごく、反抗されるいうんか。</p> <p>G₂ 患者さんが、反抗されるわけ？</p> <p>T₃ 余り気持ちが、素直すぎて、私に合わせてくれない。</p> <p>G₃ うん、うん、うん。自分の気持ちを、そのまま出されるわけ？</p> <p>T₄ それに、一寸きついから。</p> <p>G₄ きつい言葉で返って来るわけ。例えば、どんなふうに。</p> <p>T₅ 又、言い出すと、泣き出すような。何か、余りコミュニケーションとか、ああいことが、いやないうか、すごい嫌われるんです。</p> <p>G₅ 話するのが、嫌いなんか。</p> <p>T₆ じゃあないかと思います。<u>どういうふうにかが、接して行ったらいいか、わからない</u>⁴⁾。</p> <p>G₆ そうねえ、もう帰ってくれ、いうふうなこと、言われるわけ？</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>一生懸命、Yのことを知ろうと努力するが、YとTとの間には、すれ違いがあり……。2) Yはことごとく、反発する。Tは、はっきり、そのことに気付かないまま、自分の調子に、Yを合わせようとした。すると、ついにYは、怒りを爆発させ、(Y₁₁₋₁₂) それに耐えられなくなったTは、泣いて、病室を出た。悲しくて、辛い気持ちを、教員に話した。Yにどのように接していいのかわからなくなった。(……3) 4)</p> <p>〈病 棟〉</p> <p>教員Sは、時間が気になり、Tの悲しい気持ちを、充分理解できてない。</p> <p>15時40分からの話し合いで、もう1人のG教員が、何とかしてくるからと、責任を転換した。</p> <p>〈更衣室〉</p> <p>学生が泣いた、ということに教員はオドオドした。(G₁)</p> <p>Tを、そっとしておこうという、意識がはたらいた。(G₅)</p> <p>Tの泣き出した状況を問題にして、Tの苦しい気持ちを、受け止めようとしていない。(G₄)</p> <p>「Yを怒らせたことは、よくない」ということは、指摘されていない。</p> <p>Tの遭遇した問題を、積極的に、取り上げて、皆で、討議すべきであった。(G₁₂)</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>Tは、自分の言葉が、Yを怒らせている(T₇~T₁₁)ことに</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習 第四 日目 (11 月4 日・ 金)	<p>いのだろう。と思う気持ちで、一ぱいであった)</p> <p>〈患者とのコミュニケーションについて〉</p> <p>やっぱり、私のどこかに、彼をこういうふうに動かしたい、というところがある。患者にはそれがわかるから、反抗するのだろうか。</p> <p>それに、あらためて思うに、この患者は、1人にさせておくのがいいような気がする。¹⁾こちらが、無理に患者の世界に入ろうとすると、これを、わずらわしく思っているようだ。(略)</p> <p>結局、彼がどうしても、出来ないことを、介助するだけで、結構という感じだ。</p> <p>「受け持ちなら、体を拭いたり、尿器を換えたりしとけばいい」とおっしゃる。私が、色々な質問をすると、「<u>なんで、そんなに知らないといけないの</u>」と<u>言うから</u>、「<u>だって、Yさんの看護をするには、Yさんを、よく知らないといけないから</u>」というふうに言っても、「<u>そんなことは、必要ないが一。なんでそんなことするん</u>」と言われてしまう。²⁾</p> <p>私は一体、どう接すれば良いのだろうか。³⁾</p>	<p>T₇ いえ、そういうことは(そうじゃあないんね)機能訓練とか、ああいうふうな、なんかやっぱり、ちゃんと、しているっていうのはわかるけど、私達の場合、色々なことを患者さんのこと、見たいし、やろうと思うんですけど、患者さんは、そんな、私が一緒にしましょうと言うと、「<u>しましょうで、そんな、あはげた</u>」いうか、そういうふうに言われるんです。</p> <p>G₇ 自分は、ちゃんと自分でやっているんだから、いらんことをしてくるなっていう感じ?そうねえ。それで、手も足も出ない、いう感じ?</p> <p>T₈ ベッド・バスとか、ああいう、清拭なんかの時には、ちゃんと、心よく受け入れてくれるんですけど、それ以外の時……。</p> <p>G₈ ああ、なる程ね。どうしても、やってもらわなければいけないようなことは、素直に、受け入れるわけね。</p> <p>T₉ 自分の出来ることに、こっちは、こう言う……。</p> <p>G₉ そう、それで、情なくなって、涙が出るわけ。じゃあ、まんざら、もう、あなたなんか嫌いだ、というふうな、そんな拒否じゃないわけね。受け入れてくれる部分もあると。</p> <p>T₁₀ でも、清拭なんかしても、話は、しないんです。</p> <p>G₁₀ 無口なのかしら。</p> <p>T₁₁ さあ。</p> <p>G₁₁ それで困った訳ねえ。ふうん。 (沈黙)</p> <p>G₁₂ それじゃあ、今日は、Tさんは、患者さんの、そういう拒否に合って、涙がポロポロ出てきたわけね。大変だったね。大体そんなところ。次Mさん。</p>	<p>気づいていない。会話記録を通じて、Tの反省を求める必要があった。</p> <p>Tの姿勢の中に、情報を集めれば、Yを理解できるという考えが、強く作用している。(T₉、T₁₀)</p> <p>Yを知ろうとしているが、その手段がずれている。……2)</p> <p>Yに対する、先入観、思い込み、が感じられる。……1)</p>
実習 第五 日目 (11 月5 日・ 土)	<p>〈患者とのコミュニケーションについて〉</p> <p>今日は、あえてコミュニケーションだけという時間を、つくらなかった。</p> <p>看護婦さんに、「患者とのコミュニケーションが、うまくいなくて困っているんですけど」と、相談してみた。すると、こう言われた。「うん、あの人は、むづかしいな。学生さんは、だいたい、1週間とか、2週間しか受け持たないでしょう。話題がないと思うんだわ。困るね。《話するように》はっぱかけるんだけどねえ」すると、もう1人の看護婦さんが、「Y君もなあ、少しは、話してあげりゃ、ええのに。学生さんに、一寸合わせてあげればいいのに。それに、同じような年でしょう。しかも異性だしね。弱みを握られたくないんじゃないかしら。よく言っとくわな」私は「一寸、合わせてあげればいいのに」という言葉に、驚いてしまった。患者が、学生のために、学</p>	<p>〈於 病棟〉</p> <p>Tが、昨日の打撃で、今日、実習に来るかどうか、心配であった。しかし、朝の彼女の顔つきは、比較的すっきりしていた。</p> <p>「少し立ち直ってくれた」と安心する。</p> <p>実習記録物の中の「心から、患者のことを考え、誠意をもって接しよう」というTの意向⁴⁾を知り、くじけてないと思安心する。</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>昨日は、つらくて泣いたが、Yが反抗、あるいは無視しても「強くなろう」と心に決め、Yに接した。</p> <p>一方、看護婦にも、Yとの関係について、相談した。しかしそこで、「患者が、学生のために話をする」ということは、本当の看護ではないと考えた。……1)</p> <p>Yの、本当の患者の姿に感謝し、誠意をもって接して行こうと考えた。……2)</p> <p>また、必要以上に、Yに話しかけない方がいいのでは、とも思った。……3)</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>Tは、看護婦の「患者は、学生のために、合わせてあげればいいのに」という意見を、肯定していない。</p>

	学生の実習記録 (会話記録・実習ノート)	教員の指導記録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習第五日目 (11月5日・土)	<p>生に合わせるために、話をしてくれる。他の患者さんの所でも、そうなのだろうか。もし、そうだとすると、本当に我々が看護しているのではなく、反対に看護されているということになる。本当にそうなら、私はYさんに感謝すべきだろう。彼こそ、本当の患者の姿かもしれない。²⁾</p> <p>そして、現に私は、この本当の患者に、手こずって、困っている。</p> <p>〈1週間、患者に接して〉 (略)</p> <p>あと1週間、私は必要以上には、患者に、話しかけないようにしてはどうか、と考えている。³⁾</p> <p>そと、尿器を交換し、食事を運んで、体を拭いてあげたりするだけにしよう。そのかわり、私は、心から患者のことを考え、誠意をもって、接するようにならなければならない。⁴⁾</p> <p>そのうちに、ひよと、患者が、独言のように、言葉をもらす。その時を、私は待ってみよう。それしか、接し方がないように思うが……。</p>		<p>Tの解釈から、「今後は、あまり話しかけないようにしよう」と、結論を出し、自分に、そう言いかせている。</p>
実習第六日目 (11月7日・月)	<p>〈患者との、コミュニケーションについて〉</p> <p>今迄私は、自分で勝手に患者の像を創っていたのかもしれない。はっきり患者の気持を知らないで、こうだろう、きつこうに違いない。と決めつけていた。¹⁾それで、じゃあきつこうだろうから、無理に押し入ることはやめよう。²⁾結局、私は、逃げようとしていたのかもしれない。そして自分で、これでいいのだ、これしかない、と思い込んでしまっていた。</p> <p>(略)</p> <p>金曜日に、非常な打撃を受け、どうして？ どうして？ と言いながら泣いた時の、あの感情が再び、よみがえって来た。</p> <p>うまくいなくて、もともと、このままじゃ私の腹がおさまらない。³⁾どうでも、患者に、尋ねてみようと思う。</p>	<p>〈於 病棟〉</p> <p>詰所の隣で、病棟婦長が、Tに助言を与えている。教員は、ただ聞くともなく、そのままにする。</p> <p>〈更衣室での話し合い。大段先生(O)参加〉</p> <p>T、先週の水曜日に、月・火と、コミュニケーションできないんで、こんなことではいけないと思ったんで、どんと構えて、水曜日に、こう30分働いて、色々尋ねたりして、あれが一番患者と話したのが、多かったんです。そのあと、ずっと少なくなった。</p> <p>O₃₂ ね、そのね、水曜日の時に、あなたが、30分程やったわけね。例えば、どういうふうにやったん。一寸聞かせて、あなたから尋ねるわけ？ 色々。</p> <p>T₅ ええそうです。だから、質問形式みたい。(質問するねえ) ええ、だから、趣味とか、1日退屈しようとか、それから、何を話したかな。家のこととか、職業には、ふれなかったんです。それか言っても、ラジオがかかっているし、雑誌を見ていらっしゃるし、ラジオの話とか、雑誌の話とか。</p> <p>O₃₃ なる程なあ。あなたが、色々尋ねる。向うが、まあ、ちょいちょい、と言うわけか。余り気乗りせんような顔して(ええ、そうです)うるさいな、ちゅうような(そう、そういうふうに感じる)天井見ながら、あなたの顔を見てくれないね。そうか、なる程。</p> <p>(略)</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>Yとの会話はなるべく避けて、清拭や、尿器交換など、必要なことだけをしていこうと決めて病室へ行った。…… 2)</p> <p>しかし、婦長から、「逃げてはいけない。甘えてはいけない」と注意され、少しとまどった。</p> <p>大段先生との話し合いの結果自分が勝手に、Yの気持を、解釈、評価していたことがわかった。…… 1)</p> <p>そして、Yから逃避するのではなく、「何故、私を拒否するのか、はっきり、その理由を聞こう」と決心した。…… 3)</p> <p>〈病 棟〉</p> <p>婦長から助言を受け、Tは、自分の考え、態度を反省するだろうと、教員は、楽観的である。</p> <p>〈更衣室〉</p> <p>O₃₂ Tの態度(調査的な)を、ふり返って考えられるようにした。</p> <p>O₃₃ Tの気持に、ピッタリと合った受けとめ方をしている。(ええそうです。そう、そういうふうに感じる)と同意の言葉が入っている)</p> <p>O₃₄ 関係づくりについて、どのようにするか、皆に投げかけた。(しかし、反応がなかった)ので、質問して答えさせる場面について考えさせた)</p> <p>O₃₅ 関係をつくるための方法は、</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習第六日目(11月7日・月)		<p>T₉ 今日、姉長さんが、ああいうこと(1日中でもYの側にいる、逃げたはいいけない)を、言って下さらなかったら、私はきっと、こう、避けて、避けて、今の状態からのがれて、本当にこう、清拭とか、尿器交換だけに終って楽な思いをしていたと思うんです。でも、今日姉長さんから、そういうふうに、逃げるな、と言われて。又こう悩み出して……。</p> <p>O₃₄ 逃げたはいいけないと、あなた自身も、思っていたんでしょ(ハイ)うん、ただどうして、近づいていいかというか、その関係を作って行ったらいいか、むつかしいわな。ふん、皆なら、どうする。あんな苦労しとるで。私でなくて、良かったというような顔して。</p> <p>Tさんかって、水曜日に、患者にやったのはね。あなたが、色々質問して、答えさせるということをやったわけでしょう。</p> <p>T₁₀ ええ、そうです。殆んど、そうです。</p> <p>O₃₅ 僕なんかみてる、一寸、事情聴取みたいどころがあつてね。そうでしょう。そういう方法しかないか。</p> <p>T₁₁ それで、先生の方から、Tさんが、その時思った気持ちを、言ったらどうかって、言われたんで、(は、先生に)ええ、そういうふうな質問は別にして、やろうとしたんですが、こう、患者さんが、「別に」って言うんが多いんです。そしたら、その時に、私が心の中で思うことは、もっと、しゃべることはないかと、それ位しか、思わないんで。</p> <p>O₃₆ 別にしかないかと。こう言いとうなるな。</p> <p>T₁₂ で、結局は、余り気持ちを出すって、いうようなことは、ありませんでした。できませんでした。</p> <p>O₃₇ ふん。そらまあ、先生に、あなたの気持ちを、卒直に言ってみよ、と言われたわけね。</p> <p>T₁₃ こう、患者が、何か言われたら、その時、自分が思ったことがあったら、それについて、その気持ちを出してみたら、いうふうに言われたんですけど(そうか)話が何か、途切れて、患者さんの部屋に入って行ったら、とにかく、何か話さなくちゃあいいけない、ということばかりしか……。</p> <p>O₃₈ あなたの今の気持ちね。その人に対する、一寸、言ってごらん。卒直に。</p> <p>T₁₄ 気持ち。今迄に何か、言ったような気がする。</p> <p>O₃₉ 例えばこうでしょう。私は、看護学生で、実習に来てますと。あなたの、何か苦しんでいる状況を見るとね、精神看護をしなきゃあならないと思いますと。だけど、一向に、</p>	<p>質問しかないか、指摘した。</p> <p>O₃₆ Tの気持ち(Yをなじりたくなる)を、そのまま受けとめている。</p> <p>O₃₈ 患者の前では、言えなかった気持ちを、今ここで、言ってごらん、と提案している。</p> <p>O₃₉ Tの気持ちを推測して表現した。しかし、T₁₅は同意していない。Oは、関係づくりをどうしているか困っている。と考えたが、</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T 学生の変化・反省・評価
実 習 第 六 日 目 (11月7日・月)		<p>何も言ってくれないと、出来ませんと。困っておりますと。こういうことだな。</p> <p>T₁₅ 一日中、退屈だっておっしゃるんです。だから、悩みを打ち開けると迄は行かなくても、いいから、私があなたの話し相手になってあげられないでしょうか、という気持はありました(ふん、ふん)それで……。</p> <p>O₄₀ 話し相手になれないだろうか。</p> <p>T₁₆ 患者さんは、本当に甘えたがっているのはわかります。</p> <p>O₄₁ わかります。余り聞かんでも、わかってるんやな。あんたは(エッ)余り、患者の話をちゃんと聞かないんだけど、わかっているんだね。と聞いているんだ。</p> <p>T₁₇ あ。だから、医者とか、看護婦に接している所で、私が感じるんです。</p> <p>(略)</p> <p>(Tが困っている問題に対し、Oは皆の意見を求めた。すると、H学生が、発言した)</p> <p>H₁₀ Tさんに聞いていたら(Yは)婦長さんには、自分の言いたいことを、ワーと言うでしょう。看護婦さんには、何か、適当に話して、Tさんをつかまえて、少し反抗というか、してみても、それで案外、気を晴らしてというか、刺激して(いじめてな。あの人を)</p> <p>O₆₉ うき晴らしをしている。ふんふんふん。なる程。</p> <p>H₁₁ そういう面では、案外、精神的な援助をしているのじゃあないかな、と思う。</p> <p>O₇₀ やられることによって、なる程。</p> <p>H₁₂ 看護婦さんに、そういう当り方はできないから、学生であるTさんに、そういう当り方をして、あれを、晴らしているような感じがします。</p> <p>(なる程)</p> <p>O₇₁ 学生は、こわくないからな。すぐおらんようになるしな。だから、そういう解釈をするとね。あなたのさっきの解釈は、間違っているわけよ。2週間しか来ないと、学生だから、そうやなくて、2週間経ったら、もう行くんだと、あとの被害はないから、思い切りの、勝手に、うき晴らしてやろうと。こうも解釈できると、この人の、今の解釈ね。</p> <p>H₁₃ 本人が、それを意識してやっているかどうか、わからないけれども。だから案外、実習が終って、Tさんが来なくなったら、何か。</p> <p>O₇₂ ものすごく、淋しがるかも知れないな。この人の解釈、極めて面白い解釈よ。ただね、Tさんに僕言いたいのは、さっきのあなたの解釈はねあなた流の解釈やわ。こういう解釈も出来るんだもん。なる程と思える</p>	<p>Tは、話し相手になれない。ことを問題にしている。 (問題が、すれ違っている)</p> <p>O₄₀ Tの話し相手になれない、問題を、そのまま、取り上げた。</p> <p>O₄₁ 「相手に聞かなくても、気持がわかる」という、Tの考え方に対し、Oは反省を求めた。Tは「エッ」と少々、まごまごしている。</p> <p>O₆₉ O₇₀ Hの意見を受け入れた。</p> <p>O₇₁ Hの出した意見を、有効に返した。(Tに、正反對の解釈もできる。と示唆した)</p> <p>O₇₂ 解釈は、あくまでも解釈であり、全く違った解釈が可能であることを、明確に指摘した。</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T 学生の変化・反省・評価
実 習 第 六 日 目 (11 月 7 日・月)		<p>でしょう。だから、つまり、あなたはね、その人の関係の持ち方においてね。あなた自分の解釈でね。自分が、こうに違いない、ああに違いない、きつこうだわ、という自分の解釈で、自分の態度を決めてるわけよ。あなたの解釈、ピッタリ正しいだろうかと。いや、全然違った考え方もできると。こちらのようね。</p> <p>T₃₄ 何か、2つが入り混ったような気がする。ある面で反抗して。</p> <p>O₇₃ ふん、ある面では反抗して、ある面では、一寸馬鹿にして、そういうこと、無視してか。</p> <p>T₃₅ 無視して。</p> <p>(略)</p> <p>(皆の意見を求めたが、名案も出ず、沈黙が続いた)</p> <p>O₇₇ Tさんね。こういうことはできないかね。まあさらに、明日行くでしょう。その人の所へ行ってね、あなたが卒直に言ってみるわけよ。私は実習に来ているけど、あなたがね、相手にしてくれないからね、そういうことでしょう。無視しているからね。無視。だから私は、実習にならないと。正直言ってね、もういつも、逃げ出したいなと。どうして、そういうふうになるのかね、でしょう。皆が拒絶している訳じゃあないでしょう。だけど正直、あなたのような患者さんはいないと、仲間に聞いても、一体、どうしてそんなになるんですかと。私にいっぺん聞かせて下さいと。そこへ坐ってね。もう椅子持って行ってね。あんた、納得いかないでしょう。それでないと。このまま引き下がる？</p> <p>T₃₆ こっちで、色々考える。ああじゃあないか、こうじゃあないかと。考えるだけです。</p> <p>(略)</p> <p>O₇₉ どしっと坐ってね。ひとつ聞かせて下さいと。まあ泣きますよ。泣く覚悟でな。泣かされるかも知れんよ。そら、意地悪言うよ。こいつは、その点は、この人が言うように、意地めたいんでしょうな。この人は、人生を恨めしんだよ。何でわしが、ならんかと思っているよ……自分の運命が、かなわないわけだよ。そりゃあ、そうだろうな。22才で、こんなね、元の仕事には、つけないだろうし、まあ、これは、勇気のいることやで、僕の今言っていることはなはだ、ひょいひょい行って、ひょいひょいと、でさんがね。覚悟がいるでしょう。</p> <p>T₃₇ その、金曜日にやった時にも、もう1人、ある方に、アドバイスしてもらったら、先生がおっしゃったように、で、その時に、勇気がとつても。私、そんなことは、できんわと</p>	<p>T₃₄ Oの説明に対し、Tの気付き方は、中途半端である。</p> <p>O₇₃ T₃₄の気付き方に合わせTの考えを、評価していない。</p> <p>O₇₇ Tに、卒直に自分の気持を、Yに話すことを、具体的に提案した。</p> <p>T₃₆ どこ迄、理解できたか、疑問である。</p> <p>O₇₉ T₃₆を無視し、O₇₇を強調した。</p> <p>T₃₇ もう1回勇気を出そう、と思いつけている。</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>勇気を出して、Yと話をしようと考えているが、「このままでは、私の腹がおさまらない³⁾」という内容から、何のために、勇気を出したか疑問である。</p> <p>(T₃₇)</p> <p>Yの立場で考えていないことを、Tに気付かせていない。</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T 学生の変化・反省・評価
		思っ、一応アドバイスを、そっちにおいて、考えていたんですけど、やっぱり、そういうふうに言われて、もう1回、勇気を出して……。	
実 習 第 七 日 目 (11 月 8 日・火)	<p>く自分に対して、Yのとる態度（無視したり、反発したりする）が、理解できないので、それを、Yに聞こうと思い、病室へ行く〉</p> <p>T₁ Yさん、今日、どうしても、お聞きしたいことがあるんです。先週1週間、Yさんを、受け持っていて、どうしても、話ができないで、困っていました。Yさんは、割と、看護婦さんやお医者さんとは、よく話してらして、私が例えば入って来ると、ブツと、口を閉じてしまわれるんです。私には、それが私を拒否しているというふうに、とれたんです。だから、それはどうしてなのか、聞きたくて。</p> <p>Y₁ 俺は、別に差別してるわけじゃないで。差別するのは、嫌いじゃないなあ。どうして、看護婦にはこうで、私にはこうだっていうように、考えるんかなあ。</p> <p>T₂ でも、そう思わずにはいられなかったんですよ。私には、本当になんか、きつい言葉が返ってくるんですよ。私には、そう感じられましたよ。</p> <p>Y₂ まあまあ、俺の言葉は荒いし、性格が冷たいからなあ。自分でも、そう思うけんあ。まあ、僕が何か言って、それを、どうあんたが思っていたか、知らんがなあ。</p> <p>T₃ ふーん。とにかく、私の友達で、受け持っている患者さんは、割とよくしゃべってくれる人ばかりで、Yさんは、何か余りしゃべらないみたいで、私、Yさんと、話がしたいといつも思っていたんですけど。</p> <p>Y₃ 話、すりゃあいいが。</p> <p>T₄ でも、私が何か尋ねたりしても、すぐ別になって言われるでしょう。</p> <p>Y₄ どんなこと尋ねた。</p> <p>T₅ んー。例えばね、先週の水曜日に、話をしたでしょう。少し長い時間。</p> <p>Y₅ ああ、あん時、あんた、新聞読みよったが。</p> <p>T₆ まあ、ええ。そんな時に、趣味とか、住所とか、雑誌のこととか。なんか忘れたけど……。</p> <p>Y₆ 趣味って言われても、ないから、別になって言われようか、答えようがなからう。</p> <p>T₇ ええ、まあそうですね。</p> <p>Y₇ それに、あんた、いつも、3つのことしか聞かま。</p> <p>T₈ 3つ？症状のことですか？</p> <p>Y₈ そうじゃ。右足が痛くないですか？</p> <p>T₉ それは、先週の水曜日からですよ。</p> <p>Y₉ 金曜日？</p>	<p>く 於 病棟</p> <p>昨日、大段先生より助言を受け、Yの病室で、約40分間、会話する。（場面構成の主旨は以下のとおりである）</p> <p>Tの受け持ちに、Yさんをつけさせてもらった。Tの報告を聞くと、どうもあなたは、Tを拒否しているようにとれる。何故学生を拒絶しなければならぬか、Tに対して、どう感じているのか、是非Yさんに、教えてもらいたい。患者理解も深めたいし、それによって、今後、Tをどのように指導してゆけばいいか、考えようと思う。</p> <p>Yは、Tに対する、自分の気持を話してくれた。しかし、話していくうちに、Yが苦しい気持（長い闘病生活、今後の生活などに対する）に、じっと耐えている、雰囲気伝わって来た。教員Sも、そのまま座っているのが、苦痛になり、約束の時間が来たのを幸いに、退室した。</p> <p>（6人の学生に、Yと会話した時の感想を話した）</p> <p>く 更衣室での話し合い</p> <p>T₁ （略）</p> <p>まあ、あの人の本当の気持って言うのは、結局私は、言葉に感わされてつかめなかったんですね。「まあ、あんたの言い方は、気に障ることがある」って言われたんで、「じゃあ、どういう所が、気になるんですか」って言ったら、「だけ、そういうふうには、いちいち、考えんでもええ」と言われ、結局、聞き出せなかったんですけど……。</p> <p>G₁ ほんなら、YさんにはYさんの、受け取り方とか、考え方があったわけじゃないあ。</p> <p>T₂ ええ、それで「学生が、煩わしいとか、いうことは、全然そんな、思っていない。話したいことがあれば、話しかければちゃんと、答えよう」って言われて、だから結局、あの人が「別に」とか言うのは、私の質問の仕方とか、話し方が悪かったんだな（なる程ね）ああ、別にとか、そんなふうな答えをすればいいようにしか、言ってなかった。多分。</p> <p>（略）</p> <p>G₅ 結局は、あれだね。聞いてみないと、本当のことは、わからないということ。それで、又この次には、話に行こう、いう気になった？</p> <p>T₆ あ、4時前迄、ずっと話してそうすると、S《学生》さんが入って来て、帰るわよ、というふうな感じで、「時間 ですから、又お話でも」</p>	<p>く T 学生の変化</p> <p>自分を拒否する、Yの態度がこのまま続いたら、Tは看護実習が、できなくなると考えた。</p> <p>大段先生、教員及び友人達の助言もあり、勇気を出して、Yのベット・サイドで、約30分間話をした。</p> <p>Tの気持を素直に話した。するとYも、少しずつ心を開いてくれた。</p> <p>「Yさんは、本当はいい人なのだ、誠意をもって、お世話しよう」と、思った。……1)</p> <p>く 病 棟</p> <p>Yが、Tの言動に対し、何故拒絶したい気持になるかは、理解できた。</p> <p>く 更衣室</p> <p>T₁ T₂ Tの基本的態度（調査的・評価的）は変わっていない。（質問の仕方、話し方が悪いから、Yの話がすすまないといTは考えている）</p> <p>G₅ 今後、Yと話ができるようになるだろう。とTへの期待が、こめられている。</p> <p>G₆ G₅に続き、Yが拒否してないことがわかった。とくり返している。</p> <p>G₇ 今後の課題はこうだ。と先走った。（T₈は答えてない）</p> <p>G₈ T₈のYとTとの間にあるくい違いを、明確にせず、話題を変えている。</p> <p>S₁ Tを批判しては悪い、と思っ、Yの話した内容を、はっきり報告していない。</p> <p>G₁₀ Tの問題をうち切り、次に進みたい気持からの発言。</p> <p>M₁ Tの話を、もっと聞きたいという、皆の関心が満たされてないことがわかる。</p> <p>く 実習記録物</p> <p>T₁ どちらかというと、Tのために、勇気を出して聞いた。</p> <p>Y₁ Y₂ Yが自分のことを、語っている。</p> <p>Yは今迄の、Tの会話をはつきりと記憶しており、そのまずきを、細く指摘した（Y₅～Y₁₁）</p>

	学 生 の 実 習 記 録 (会話記録・実習ノート)	教 員 の 指 導 記 録 (話し合い・病棟での指導)	T 学生の変化・反省・評価
実 習 第 七 日 目 (11 月 8 日・火)	T ₁₀ はい。運動のこと言ったら、すぐ、きつく、Yさんが私に言われてそれから、何か話そうと思っても、何かこう、話せない感じだったから、結局、症状なんか、尋ねるしか、できなかったんです。	って言ったら、「何で、もっとお話でもって」いうふうな、あれ、されたんですけど。こう何かをしながら、足を洗ってあげたりとか、ああいうことをしながら、私が、別について答が返らないような話題をみつけて、話でもできたら、と思っ	T ₉ 反発した。 Y ₁₀ Y ₁₂ T に対し、兄のような言い方をした(はっきり、言ゃあ、ええんよ。俺、言ったな)
	Y ₁₀ ああ、あん時、あんたは、運動しましょう、しましょうばっかり言って。運動なんか、自分でできるんじゃけんあ。まあ、後で、こうだからって言ったけど。はっきり言ゃあ《ええ》ええんよ。	G ₆ なる程ね。Yさんが拒否しているのではないということは、はっきりわかったわけじゃなあ。	Y ₁₁ 実習第4日目のTの発言(既述、T ₃ T ₄)を、尿器の交換回数、これでは不足か。と、とって、腹が立った。と説明した。 T ₁₃ 素直に受け止めたが、最後に「とっともきつく」と反発した。
	T ₁₁ はい。	T ₇ だから、結局私が、こう、くじけたというか、あれした時に、その後から、話しくなったせいで、症状のことだけ位、私が必要な、看護のあれしか、こう、Yさんに聞かなかったから、あの人も、別に位しか返す言葉もないから、仕方がないっていうふう	Y ₁₃ 弁解した(きついことを) T ₂₂ T ₂₃ でも、そうですか?と反発している(素直でない) Y ₂₂ 自分の気持を、軽く扱われているような気がしたのではないだろうか。
	Y ₁₁ それになあ、尿器は、今回回換えてますけど、足りませんか、なんてことを言われりゃあ、腹が立つよ。それで、1日にどれ位、お茶飲むんですか、なんて言われたって、よけ飲む日もあれば、少ない日もあるんじゃけんあ。	G ₇ そうじゃあ、まあ1つ、乗り越えられたわけじゃなあ。壁にぶつかっていたのが。今度は、どういうふう	T ₂₃ 他の人もこうだ、というのは、問題を一般化したことになる。
	T ₁₂ はい、そうです。	に、お話をしていいたら、打ちとけて、話ができるのであろうかというふうなことが、課題になってくるわけ?	Y ₂₃ 反発してきた。
	Y ₁₂ 俺、確か言ったなあ。そんなことより、ちゃんと、尿器を換えてくれりゃあ、ええって。	T ₈ Yさんは、私が、精神的な援助というか、そういうことがしてあげたい、って言う	
	T ₁₃ はい、言われました。とっともきつく。	と、で、まあ、それがうまくいかないから困っている。とか言う	
	Y ₁₃ さっきも言ったけど、俺は、言葉が荒いけんあ。 (略)	たことではない。いちいち考えるほどのことでもないんじゃあないか。って2~3回言われました。(ああそう)自分は、そういうふうに、自分ができないことを、してもらっていると、充分、満足だから。って言われると。	
	T ₂₁ だって、私は、Yさんの看護をしていて、まあ、体を拭いたり、尿器を換えたりは、してますけど、看護っていうのは、身体的にも、精神的にも、患者さんを、援助することだと思	G ₈ それで今日は、ほんなら、ベッド・バスをしてあげたわけ?	
	Y ₂₁ だから、どうして、そんなふうに考えるんかなあ。僕は、あんたに、体を拭いてもらったりする。これだけで充分満足じゃと、思	T ₉ あ、ヘアーバスと、後足浴をしました。午後からは、お母さんが帰られて、一寸尿器を交換しました。	
	こう、ベットにずっと、寝とっとも別に不満なんか、ないしなあ。	G ₉ S先生、話に行かれた時、どんなでした。	
	T ₂₂ そうですか。でも、せめて話し相手にでもなれたら………退屈だと思	S ₁ テープには結局、入れなかったんです	
	しゃるなら、少しは、話をして、時間が過ぎて行って、というふう	にですね。あの、彼女が言ったような感じは受けましたね。別に不満で、拒絶しているわけではないことを、はっきり言	
	Y ₂₂ でも、話したからって、退屈でなくなるってこともな	われましたし、そんな感じもし	
	T ₂₃ そうですか?ある患者さんは、側にいて、まあ、話し相手にでもな	ったんです	
	って下さ	らいいわ、っていうよう	
	な人も、いら	っしゃるみたい	
	Y ₂₃ まあ、そ	りゃあ、いろん	
	な人がお	るわ	
	なあ。10人10色で	なあ。 (略)	
	* 誠意をもって、心から患者のことを考えて、お世話しよう。 ¹⁾ 私は、今、本当に、それだけを思っている。	G ₁₀ やっぱ、聞いてみ	

	学生の実習記録 (会話記録・実習ノート)	教員の指導記録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習第八・九・十日目 (11月9・10・11日) 水・木・金)	<p>〈患者とのコミュニケーション〉 (第10日目)</p> <p>朝の挨拶も、尿器を最後に換える時も、清拭した後も、挨拶して下さるようになった。</p> <p><u>確かに、7日目以後、言葉が以前ほど、きつくなくなったことがわかる。¹⁾</u> 多少、気を使っているかもしれない。じっくり落ち着いて、話をすることはまだできない²⁾。清拭したり、床頭台を拭きながらしか、話すことができない。じっくり何か話そうと思っても、私の方から話しかけないといけないので、それには、ちゃんと話題を、みつけておかなければならない⁵⁾が、話題がないので、困っている。</p>	<p>〈更衣室での話し合い〉 (実習第8日目)</p> <p>T₂ まあやっぱり、私も火曜日に、この気持ち言ったばかりです。だから、言ってあげると、可愛そうだなと、《Yが》思ってた下さったのかも知れないけど、時計見て、あもうこんな時間か。こういうふうに言って下さったのが、すごく嬉しかった。</p> <p>G₂ Tさんは、一寸、こうふれ合ったわけね。嬉しかったね。</p> <p>T₃ まあ、色々こう、男の人の心理というか、色々こう聞いたりして、一体じゃあ私はどういうふうに、あれしたらいいのかなあと、すごく迷ってたんです。今日お昼から、話をしようと思っても、何か話題をつくらなくちゃいけない。作らなくちゃいけない。と決めてから行かなくちゃいけない。と思いつつも、決められなくて、結局そんなふうに、コミュニケーションが出来なかったけれども⁴⁾患者さんが、そう言って下さったので。</p> <p>G₃ 他の方は？ 話題提供者どうぞ。 (実習第9日目)</p> <p>T₆ それにこう、ひとつひとつ、前は、本当にありがとう、いうことは、あまりなかったんですけど、ベットのバスをして帰ろうと思ったら、「ああ、ありがとう」とか、尿器ひとつ換えても「ありがとう」とかで、あの帰る時も「ごくろうさま」とか、こういうふうなんです。あいつ程度かも知れませんが、<u>一つ一つに、反応がある。³⁾</u></p> <p>G₃₅ えっと、他の方は、何かないですか。</p>	<p>〈T学生の変化〉</p> <p>Yと、じっくり、話すことはなかったが、Yの言葉は、以前ほど、きつくなくなった。…1)2)</p> <p>実習第9日目頃から、Yは、Tの顔を見て話をしてくれ出した。(今迄は、雑誌を読んだり天井を見たままだった)また、Tの行為(清拭や尿器交換など)に対し、一つ一つ「ありがとう」と挨拶してくれ出した。…3)</p> <p>Yとの心の通じ合いを感じ、嬉しくなる。</p> <p>〈更衣室〉</p> <p>T₃ 話題が決められないから、Yと話が出来ない。という問題を提示している。……4)</p> <p>G₃ Tの問題を取り上げていない。Tが困った問題は、もう片付いたという気持ちがある。</p> <p>G₃₅ G₃と同様、Yに拒否されなくなったので、Tの問題は解消したと思い、他の人の問題を引き出そうとした。</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>患者との会話について、Tと話し合っていない。……5)</p>
実習第十一日目 (11月12日・土)	<p>〈実習最後なので、昼食前に話した場面〉 (略)</p> <p>Y₂₆ ごつ一暇なんだなー</p> <p>T₂₆ ええ、暇です。特に今日は最後の日です。患者さんの、見おさめってどこでしょうか。</p> <p>Y₂₇ ほう、暇なこと。 (沈黙)</p> <p>Y₂₈ 目障りやなあ。(小さい声で)</p> <p>T₂₈ 目障りなんですか？ じゃあ逃げましょうか？ きーきー逃げれば、いいんでしょう。</p> <p>Y₂₉ 誰がそんなこと言ったん。</p> <p>T₂₉ 今、言ったじゃありませんか。</p> <p>Y₃₀ 目障りと、言っただけだ。</p> <p>T₃₀ 目障りで、逃げてはしんでしょう？</p> <p>Y₃₁ さあー、(ニタッと笑っていた) (沈黙・それでも居坐った)¹⁾ (略)</p> <p>〈実習を終えて〉</p> <p><u>私は、この実習で、あらためて考えたことがある。それは、患者の“甘え”²⁾</u></p>		<p>〈T学生の変化〉</p> <p>別に用事がなくても、気軽にYの側に居れるようになった。…1)</p> <p>Yの方から気安く話しかけ、(Y₂₆ Y₂₈)その上、Tをからかったり、なぐさめたりする場面も、展開された。Tは、そんなYの言葉に、言い返したり、さからったりした(T₂₆ 28 29 30)</p> <p>TはYと、楽しんで、けんかができた。</p> <p>悪戦苦闘した実習であったが、自分をあらためて、見つめ直す機会が与えられたことは、何よりの勉強になった。</p> <p>〈実習記録物〉</p> <p>「患者が甘える」という、Tの問題が、実習中、解決されない</p>

	学生の実習記録 (会話記録・実習ノート)	教員の指導記録 (話し合い・病棟での指導)	T学生の変化・反省・評価
実習第十一日目 (11月12日・土)	<p><u>という心理についてである。</u> (略)</p> <p>ある日《実習6日目》婦長さんより「Y君は、甘えたがっとなんよ。だから、あなたが甘えちゃあ、Y君が甘えられなくなるのよ」と言われ、私はその時、<u>自分でも知らないうちに、Yさんに甘えていたのかもしれない。だから、Yさんと私の関係が、うまくいかなかったのではないか、と思ったことがあった。</u>³⁾ (略)</p>		<p>まま、実習が終了した。そのため、ここに、再び書き記している。皆で、討議すべきであった。……………2)</p> <p>Yに甘えていた、ということは、Yを受け入れられないため、TはYに反発をくり返し、2人の関係はうまくいかなかった³⁾ことを明確にする必要がある。</p>

Ⅲ 考 察

1 学生Tの変化

表1の〈T学生の変化〉に示すように、11日間の実習中、Tには多くの変化がみられたのがわかる。

この、自ら気づき変化して行く体験は、今後Tが、看護を学ぶ上にどのような意義があったのか、そのケースレポートを引用しながら考えてみたい。(『 』内は、T学生のレポートの引用である)

(1) 患者の場処へ行くTの姿勢について

実習初日からTは、Y患者が話をしてくれなくて困っている。これは、Yが年上の男性(兄のような人)なので、『挨拶をすれば、笑顔で学生を迎えてくれるんじゃあないかと、甘い考えをもっていた』と言うように、Yに対して、無意識のうちに甘えたいという感情が動いていたものと思われる。そして、Yは必要以上のことは話してくれない、無表情で自己防衛的な人だ。と決めつけているが、そのような評価をする前に「何故、Yがこういう態度をとるのか」と自己を振り返って考える姿勢がほしい。因に野島は「臨床実習の初期において必要なものは私離れすることである。私離れしてゆく過程というのは、学生自身が自己の自我を強めてゆく過程にほかならない」¹⁾と述べているように、なるべく早い時期に自己の態度が振返れるような働きかけが大切である。

またTは「患者を知らなければ」という看護学生としての使命感から、Yに食事・排泄・清潔・趣味等と、多くのことを質問している。そして『すぐ情報を集めようとしたため、いかにも患者をくさぐる』といった調査的態度になってしまい、Yは自分の気持を話そうとしなかった』と述懐しているが、ここで患者を分析的に観察し、情報を多く知るということは、真の患者理解になっていないことが了解できたようである。

実習4日目に至っては『情報収集に気をとられて、Yの感情に应答することがなされていないため、スレチガイの関係のままで、Yの怒りから逃げようとし、またそれを押さえつけようとしたため、Yは怒りを爆発させずにはいられなかった』

Yの怒りに遇って泣いたTは、一時「Yは学生と話したがりない人だ」と思い込み、Yとの会話はなるべく避けようと考えた。しかし、実習6日目婦長から「逃げています。甘えている」と指摘され動揺した。そしてその日の大段氏等と、Yとの問題を討議した過程で、

Tは自分の解釈・評価といった『枠の中でしか相手のことを考えていない』ことが認識できたのである。

(2) Tが勇気を出してYと話をし、2人の間にふれ合いが生じた意味

Yとの人間関係がうまくいかないためTは悩み続け、教員や友人達に相談した。その時『どうしてYがそういう態度をとるのか、はっきり聞けばいい』と助言を受けていたが、仲仲勇気が出ず、自分にはとてもできない、と思っていた。しかし大段氏の同じ内容の助言に思い直して、やっと実習7日目にしてYと話し合うことができた。その前後のTの微妙な心の変化が、レポート中によく表現されているので、少し長くなるが、ここに引用する。(表1 実習7日目の実習記録欄参照)

T₁で今まで自分は(Yについて)こんな風に思っていたのだが、Yの気持を聞かせて下さい。という場面構成をした。Yはゆっくりと自分の気持を話し出した。またT₂ T₃と私は素直に今迄自分が思っていた事をYに話した。Y₅の言葉はとても私を驚かせた。6日前の私の態度をしっかりと覚えていたからだ。その日私は、Yとどうしても話をするんだと頑張っていた。しかし沈黙ばかり続き、手持無沙汰だったので新聞を持ち、顔は新聞の方に向いていたものの、頭は必死で次に何を話そうかと、そればかり考えていたのだ。その態度を指摘された。Yはその時の私の態度が気に入らなかったようだ。その都度、私は必死で今迄Yに対して感じていた自分の気持を正直に訴えた。Yは私の気持を聞いてくれた。そしてY_{21・22}で「自分は体を拭いてもらったり、尿器を換えてもらえさえすれば充分だ。無理に話相手になって退屈でなくなるということもない」とYの思っていることを話してくれた。Y₂₄で「俺みたいな患者に当たったのが悪かった」とYの詫げる気持が出た。私は“とても詫げてもらうなんて、私の方が悪かったのに”と、とっさに思った。話し終えてYは決してひねくれない、無口でもない、本当はいい人に違いないと思った。Yが心で思っていることや、考えの一部を聞くことができ、そこで改めて自分の態度を反省し、Yを理解してゆきたいと思う気持がわいた。素直に自分の気持を話すことは、場合によっては本当に勇気が必要であり、しり込みしたくなるが強くなれと自分に言い聞かせ、体当たりしなければ看護はできない。(略)

どんなに看護者に対し拒絶的な患者でも、看護者の素直な気持を知れば、患者は少しずつ心を開いてくれるのではないかと思う。(略)

(その後)とりたてて言うような言葉の交し合いはなくても、Yは私の心を受け入れてくれ、また感謝してくれている。そこに私とYとの心の通い合いがあるのではないか。

つまり、Tはブーバーの述べている「一人の人間は、他のもう一人の人間との生きた全人格的なかわりに踏み込んで、はじめて実存的事実となる。人間の実存の基本的な事実は《我と汝》という人格的關係において共存しつつある人間である。」²⁾ということを経験したのではなかろうか。

良い看護は、患者と看護者との人間関係がうまく成り立つ上にあるものである。そしてその人間関係は看護者のとる態度によって左右されるのであるということ、私はこの実習で痛感した次第です。

これから私はいろいろな患者に接していくようになるが、このケースで得た看護者としての本当に基本的な態度を身につけるために、そして人格的に自分を成長させるために頑張りたいと思う。

と述べている。Yに受入れられず苦しんで泣いたTが、実習を振り返り思索することにより、人と人との関係を明確にとらえ、看護者の姿勢が自覚できたのである。このことはTにとって大きな変化(成長)であったと言える。また教員としては、微妙に変化する個々の学生に注目し指導すべきだということを痛感した。

2 実習指導の反省・評価

(1) 資料の検討からの反省・評価

患者を「全人的に捉える」臨床実習をどう展開するかを課題に、実習指導にあたったが、

資料の検討で明らかなように、筆者らの能力不足のため役割を果たしていない、という点で失敗であった。

しかし、この経験と反省から多くの示唆を得ることができた。

- 1) 教員の力不足から、問題点を把握できず、通り一片に報告を聞くという態度に終始し、学生が問題を提起しているにもかかわらず取り上げようとしなかった。
- 2) 教員の、役割に対する理解があいまいなまま指導にあたったので「なるべく言うまい、聞くだけにしよう」「居辛ければ看護婦詰所にしよう」という意識が強く働き、柔軟に対処することができなかった。
- 3) 学生から提起された問題をグループで討議し、意見交換することができなかった。
- 4) 実習記録を充分活用しないままに終わってしまった。中でも会話記録は具体的な患者とのかかわりが示されているので、その都度検討し指摘すれば、更に効果的に実習が促進したのではないかと思われる。
- 5) Tの看護に対する基本的姿勢を指摘し、気づかせる働きかけができなかった。例えば「患者の横にどんと坐ってしよう」「患者に甘えていたのかも知れない」「このままでは腹がおさまらない」等の言葉の端々に看護者中心の態度が表明されているが、その場では見逃してしまった。
- 6) Tの気持を、教員は理解し受止めようとしていない。特に合田は病棟で患者と学生の間に起った事象を知ること懸命で、Tの困っている気持をわかってほしい。この場合、合田は病棟に出ていないので、病棟での出来事を知ることには限度があるが、目の前にいるTの気持を理解しようとすることはできるのである。

教員の反省を概括すれば、以上の諸点が挙げられる。

更に大段氏を交えての話し合いで、^(註) 筆者らは、実習指導での教員の役割を確認することができた。

(註) 実習第6日目、大段氏は筆者らの指導ぶりや実習の展開に関心をもたれ、来問された。筆者らの覚束無い対応振りを見るに見兼ねて、話し合いに加わって下さったのである。

- 1) 必要なところでは、指摘・提案等を明確に行う。筆者らは指摘・提案はすべきでないと固執していた。
 - 2) Tの気持に沿って応答する。たとえTの応答がすれ違っていても、そのまま気持を受止める。これまでは道理を通そうとして、相手の気持を無視していたように思う。
 - 3) 実習後の話し合いで、学生が困っている問題を取り上げ、みんなで意見を交換することにより、違った考え方や見方ができるようになるものだということに気づいた。
- (2) 実習指導全体を通しての考察・反省
- 1) 実習指導のあり方について

とにかくこの実習指導をふり返ってみて、実習指導の一つのあり方を体得することができたように思う。即ち臨床実習とは、患者との接触、それは全身清拭であるかも知れないし、体温測定であるかも知れないが、それらの看護行為を通して直接的に患者に接し、その体験の意味を再確認し、学生自らの中に実践能力を蓄積していく活動であり、実習指導とは、その活動を教師が援助することであると考えているのである。外口も看護特有の接近方法があるとして「看護婦の場合、因果関係はよくわからなくても、そこでできることをしながら(手だて)、その反応で見聞きしていることの関連づけや意味を、あとでわかっていくということが特徴的な看護のアプローチとしていっているのではな

いか」³⁾と述べ、看護は常に患者と看護婦の接点から始まることを主張しているのである。

2) 実習後の話し合いの重要性について

実施したことの反応の意義づけを確認するという意味で、実習後の話し合いの重要性を再認識した。この話し合いをいかに有効に進めていくかが、実習の効果を左右する、と言っても過言ではない。

3) レポート作成の意味について

体験をふり返るということにおいて、話し合いと同様の意味合で、レポート作成も重要な活動である。話し合いが体験の直後であれば、レポート作成は本を読み思索し、体験の意味を更に深めるのに有効である。従ってレポート作成までを一連の実習として展開すべきであると考ええる。

4) 実習展開にあたっての教師の能力について

このような実習を展開するには、教師は敏感な感受性、洞察力をもって学生に対応する能力が要求されるということを知らされたのである。だからといって、このような能力を一朝一夕に身につけることは出来ないし、また知的にわかったと言うことで実行できるということでもない。

そうすると今まで述べてきた学生の実習過程と同じように、教員も実習指導を体験し、それを克明に振返り再確認するということを積み重ねるという方法しかないのではなかろうか。まさに臨床実習という学習活動は、学生・教師が一体となって展開する、ダイナミックな学習であるとも言えるのである。

以上考察をすすめてきたが、これらは今更ながらという感もあるが、筆者らにとっては、“気づき”であって、貴重な体験だったのである。

Ⅳ 要 約

患者を全人間として把える臨床実習を意図し、展開した。そして学生Tに注目し、その実習記録、教員の指導記録を検討し、反省、評価を行った。その概要は次の通りである。

1 学生の変化

始めて患者を受持つての実習で、学生Tの戸惑い、悩み、挫折感の交錯が理解できたと同時に、Tは、それを克服し、前進しようとする力を充分持っていることもよく解った。またTはTとして悩み、Tのやり方で克服していかなければならない。所謂個性がはっきり提示された。

このことから、学生個々に注目する指導の必要性を痛感する。

2 教員の能力不足から、役割を果たし得なかったという点では、失敗であったといわざるをえない。その反省点は

- 1) 学生から提起された問題を適切に取り上げなかった。
- 2) 学生の実習記録を充分活用できなかった。
- 3) 学生の看護に対する基本姿勢を指摘し気づかせる働きかけができなかった。
- 4) 学生が問題にぶっかかり悩んでいる気持を理解し受け止めようとしなかった。

3 実習全体を通しての反省・評価

- 1) 実習指導の一つのあり方を体得することができた。それは患者と接触し、実践するところから始まり、体験したことを振返り意味を確認する活動である。

- 2) 実習展開にあたっての教員の能力が大きく問われる。その修練は、実践しそれを繰り返すことの積重ねしかない。

おわりに

この研究をふり返ってみて、筆者らは、正直なところ、自分のやっていることが、これほどひどいとは思わなかった。うまくやれているのでは、と少しぐらいは自負していたのである。学生諸姉に対して、まことに申し訳ないことをしているという気持で一杯である。

しかし、臨床実習の一つのあるべき姿が、はっきり見えてきたことと、学生の伸びる力の素晴らしさを実感できたことは、何よりの収穫であった。

筆者らは、この反省を、再出発の第一歩として、全人間のかかわりの中に看護を追究して行きたいと、心を新たにしているのである。

御指導いただいた大段智亮先生、資料を提供して下さった田中祥子さんはじめ、実習グループの学生諸姉に心から感謝の意を表したい。

文 献

- 1) 野島良子著：人間看護学序説、医学書院、134、138、（1976）
- 2) 大段智亮・石川左門・土橋洋一著：死と向かいあう看護、川島書店、248、（1974）
- 3) 外口玉子：看護教育、19、72、（1978）

昭和54年3月30日受理